



OED REACH

2003年10月31日

民営電力開発: 世界銀行グループの業績評価

OED/ OEG/OEU 合同評価 *Power for Development: A Review of the World Bank Group's Experience with Private Participation in the Electricity Sector* (開発力: 電力セクターへの民間参加における世界銀行グループの業績評価) に基づく。

- 世界銀行グループ (WBG) は、主要目標として民営電力開発 (PSDE) 支援を継続していくべきである。よく実行された世銀の PSDE 活動は、電力改革の推進に政治的に専心する国のセクター効率性を改善することができる。
- IFC (国際金融公社) および MIGA (多数国間投資保証機関) の成果は肯定的であるが、世銀のプロジェクトレベルでの PSDE 成果は期待はずれであった。その理由は主として、永続的かつ公平な成果を達成するのに伴う改革の複雑性とそれに要する時間を、世銀が過小評価したためである。セクターレベルでは、PSDE の成果は、改革に十二分に専念した国々は別として、貧弱もしくはせいぜい成否の混在したものである。
- 電力セクターの改革過程は複雑で資源集約的、時間がかかり、セクターが変身できる状況を創るのに調整や順序づけを必要とするため、PSDE はまだまだ進行中の作業といえる。
- 貧困削減と環境主流化を電力部門改革および PSDE 戦略の設計に統合するには、これまでは大概セクターの効率性およびマクロ財政目標に照準を当ててきたが、多くの課題が残されている。

この研究は、民営電力開発 (PSDE) の推進における 1990 年代の世界銀行グループの業績を評価するものである。世銀グループの 3 つの独立系評価ユニット (世銀の事業評価部門、国際金融公社 (IFC) の事業評価グループ、および多数国間投資保証機関 (MIGA) の事業評価ユニット) によるこの合同考察は、世銀グループの 2001 年度エネルギー事業再開発戦略 (Energy Business Renewal Strategy) の遂行を報告することを意図している。それは、世銀の分析的および諮問作業を通じた世界 80 カ国における世銀グループの PSDE 援助活動、154 の世銀プロジェクト、29 の完了した IFC 投資計画、および 8 件の MIGA 完了プロジェクトの評価に基づいている。

献身的に努力している国々においては PSDE が期待される恩恵とすぐれた成果を収め、改革が進み、PSDE プログラムは適正に遂行されたという点が、本報告書の主たるメッセージである。PSDE は欧州同盟 (EU) への加盟をねらう東欧諸国と同様、中南米では成果を出しているところもある。これらの場合、物資の不足が軽減し、電力アクセスは増加し、サービス

の質は向上すると共に国庫収益は増加し、そして財政補助金は減少した。

概して、結果のクオリティは追求された目標および提供される援助の種類に依存した。多くの国は、電力セクターへの民間部門の関与において、依然として変革の初期段階に留まっている。全領域をまたにかけ、一連の手段を通じて複数の複雑な改革目標を追求する世銀は、国有および持続的な政治的献身という文脈でのみ成果を達成した。改革が脆弱または後進の地では、不十分な、あるいはせいぜい成果の入り混じったものだったと言える。民間部門の参加という単一の改革目標に照準をあて、新世代を対象とする市場需要 (典型的には不足に取り組むこと) に応えてきた IFC と MIGA は、相対的にはプロジェクトレベルでよい成果を挙げてきた。

地域	全体的PSDE ステータス
アフリカ	PSDE の業績はわずかで最近のもの。危険がある。
中東および北アフリカ	PSDE 努力は始まったばかり。
ヨーロッパおよび中央アジア	PSDE の進行具合は成否入り混じったものであり、維持能力は不確か。
中南米 & カリブ	PSDE においては最先端地域。電力部門の変貌は最も進んでいる。
東アジア & 太平洋	PSDE プログラムは金融および政治リスクによって脅かされている。
南アジア	革新的および集中的 PSDE 改革は逆戻りの危険に瀕している。I

セクターレベルでは、成果が体系的に監視されているわずかな国では PSDE からの肯定的な収穫の証拠が散見される。たとえば、世銀援助によるペルーでの PSDE 活動は、公庫の枯渇（1990 年には 3 億ドルの赤字）から営業利益（1998 年には 3 億ドル）源へとセクターを変貌させた。同時にそれは効率性を増し、1993 年には 21.8% だった送電損失および配電損を 1998 年には 12.4% にまで削減した。サービス範囲も 1993 年には 53% だったものが 1998 年にはほぼ 70% にまで拡張し、アクセスも改善された。

本調査は、セクター改革に唯一の青写真があるわけではないことを指摘する。国独自の目標と状況によって動く改革ステップのさまざまなコンビネーションとシーケンスに対応するのは、オプションの展開メニューである。さらに、貧困削減と環境の主流化（「害を及ぼさない」に加えて「よいことをする」）は、セクター改革および PSDE 戦略の本質的な構成要素ではない。独立系の電力製造業者は、供給障害を緩和し、公共部門の融資能力を活用して早期に勝ちを生む上で

決定的な役割を担ってきた。しかし流通サブセクターにタイムリーな改革が欠如していることが、生成サブセクターでの利得を危険にさらす可能性がある。

世銀グループの PSDE 支援は、実践しながら学んでいく必要のある「進行中の作業」である。しかし国としては、他の国々における同様な状況での経験から引き出された世銀グループの健全なアドバイスからサポートを得て、明確な目標を設定し、他をリードすべきである。PSDE 支援では、合同 Country Assistance Strategies (CAS)の方が世銀だけの CAS より効果的であったが、CAS のみを通じた調整では不十分である。

全体として、世界銀行グループの PSDE におけるアドバイスと支援は、民間資本移動の減少や高まるマクロ経済と政治的リスク、そして乏しいスポンサー/投資家利益という今日のグローバル環境の中にあっても、引き続き必要がある。世銀グループは、改革が緩慢で、政治的リスクの高い上に規制が欠如しているために投資家にとって魅力の少ない低所得国において、とりわけ重大な—そして緊急に必要とされる—役割を果たしている。

本調査は世界銀行グループに PSDE 追及を継続するよう推奨するものである。その際に世銀グループは、以下の事項を実行すべきである：

- いつ、どのように PSDE を推進していくかのより詳細な運用ガイダンスをスタッフに提供する。
- 貧困削減と環境目標を今後の PSDE 戦略デザインへより一層融合させていく。
- 実践および手段とその PSDE 目標との間の更なる一貫性を確保するため、より体系的な監視体制および影響評価を通じた改善を含めて、運用上の改革を督促する。

Juicy Zareen Qureishi-Huq
O:\PUBS\OED Reach\PSDE_Reach-Japanese.doc
October 31, 2003 8:52 AM

マネジメントの対応

マネジメントは、世銀グループが電力セクターにおける民営開発を引き続き支援すべきであることに同意している。それはまた、電力部門における民営開発を推進する際に直面する課題に対する報告書の評価を共有している。マネジメントは報告書の勧告を広く支援し、それらの多くが対処されていることを示している。とりわけ、Energy Sector Anchor が世界銀行と IFC および MIGA の相対的な役割に言及する PSDE のためのガイダンス覚書の準備を開始した。この覚書は管理の改良を通じて、PSDE 退潮の阻止と公益保護の必要性に関連した緊急課題に焦点を当てていく。世銀グループは、政策対話や民間介入の支援および新規手段を通じて、流通への民間部門投資の促進に取り組んできた。しかし、限られた利用可能な財源が他のハイリスク/ハイリターン投資に向けられる傾向にあるため、地方民間部門の小規模または非集中型プロジェクトへの関与が今後増加するかに関して、マネジメントは控えめな展望を注記している。運用上の革新としては、マネジメントは CAS の半分と 2001 および 2002 会計年度の CAS 進捗報告書は世銀と IFC とが共同で作成したものであり、この努力は 2003 会計年度にも継続されていると言及している。作業はまた、監視および評価の方法とデータを構築する PSI VPU およびエネルギー部門集団/ Sector Board で進行中である。

タスクマネージャー *Fernando Manibog (OED), Rafael Dominguez (OEG), Stephan Wegner (OEU)*

ディレクター *Ajay Chhibber (OED), William Stevenson (OEG), Aysegul Akin-Karasapan (OEU)*

OED Reach : <http://worldbank.org/oed>